

とみおかまち



vol.13

[発行日]
2020年6月5日



福島県
富岡町

支援員だより

発行 富岡町県外避難者支援拠点事務所 〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤6-4-21 一般社団法人 埼玉県労働者福祉協議会 内

お困り事など、どうぞお気軽に！
ご連絡待っているっぴ



TEL 048-832-0600

FAX 048-833-8746

MAIL tomioka_saitama@eos.ocn.ne.jp

「みやぎ・富岡さくら会」の新年会

令和2年
1月22日

ホテルモントレ仙台の日本料理・随縁亭(ずいえんてい)にて「みやぎ・富岡さくら会」の新年会が開催されました。平成31年3月に13世帯・22人の自治会として設立され、今年が初めての新年会でした。新春の仙台は、風を冷たく感じるものの、陽ざしはあたたかく良い天気にも恵まれました。ホテルの玄関先でお会いした皆さんの、はちきれんばかりの笑顔。当事務所より参加した支援員も、とてもうれしく拝見しました。

当日は会員15名が参加。坂本会長の「参加された皆さんの元気な姿が、何よりうれしいです」とのあいさつで始まり、それぞれの近況などを報告し合い、笑顔と笑い声が絶えない時間となりました。今後は若い人にも参加してもらえるような会にしていきたい、と新たな目標を掲げ、盛況の内に閉会となりました。

また、「みやぎ・富岡さくら会」の事務局と当事務所の支援員で「福島県県外避難者相談センター(宮城拠点)」を訪問しました。同センターは、福島県から宮城県に避難されている皆さまを支援しており、「みやぎ・富岡さくら会」の設立にもご尽力いただきました。訪問の中で、日常生活で不安や葛藤を抱えている方々へ有益な情報の提供と交流の場を設けたい、とのお話をいただきました。



皆様
お元気でした!!

会長さんの
あいさつ



福島県
県外避難者
相談センター訪問
(宮城拠点)

皆さん
お元気です!



毎回、富岡町で出身の皆さまの近況をお伝えするコーナーです

福玉 交流サロン

令和2年1月28日

in熊谷

キングアンバサダーホテル熊谷にて、「第23回福玉サロンin熊谷」が開催されました。前日から関東地方に大雪注意報が発令され、参加する皆さまに集まっていただけのか心配でしたが、幸いにも雪が雨に変わり、無事に開催することができました。しかし、小雨の降る中、ホテルの駐車場が若干遠く、自家用車で参加する皆さまには、ご苦労をおかけすることになってしまいました。

到着後は、まず、おいしい食事をbuffetレストラン「サーフ&ターフ」でいただきました。その後、会場を移動して交流会を行いました。自己紹介では、お名前と近況報告だけでなく、福島の思い出や避難の苦労など、思い思いにお話しいただきました。ピンゴゲームでは、日ごろの悩みや辛さを忘れ、楽しいひと時を過ごしていらっしゃいました。

今回の交流会では、『くまがや結の会』に大変お世話になりました。ありがとうございました。



皆さまの笑顔が
素敵だっぴ!

それぞれの3.11 あの日から、現在、そしてこれから

令和2年2月6日



板橋区立グリーンホールにて、富岡町と東京都板橋区「福祉の森サロン」との交流会が開催されました。この会は、板橋区社会福祉協議会が「本当に大切なことは何か、被災地の方の声を伝え続け、震災を風化させてはいけない」をテーマとして始め、今年で6回目となります。当日は、板橋区でサロン活動を行っている方々など、約70名が参加されました。

ステージの上では、ハワイアン音楽が流れる中、富岡町からの避難者4名を中心に、しなやかに華やいだフラダンスが披露されました。フラダンスは、一つひとつの振りに一つひとつの意味があると言われ、何かを語り掛けるように踊り終えた方々の笑顔に



フラダンス交流会のようす

は、安堵と満足感があふれていたように見えました。

その後、富岡町社会福祉協議会と富岡町民の方、地元の板橋区社会福祉協議会とサロン関係の方々8名で、「それぞれの3.11」をテーマにディスカッションが行われました。富岡町の方は、フラッシュバックに苦しんだり、居住制限と帰還困難区域の区切りに悩んだりする中、今でもご近所とのつながりがうまくできないことなどを訴えておられました。板橋区の方は、東京でも交通網が遮断され、長時間歩き、いろいろな人に助けられながら自宅にたどり着いたが、家の中では家具などが倒れ、靴のままでないとい入れないような状態だったと振り返っておられました。

福島県避難者支援課の二階堂さんは、全国にまだ約3万人の避難者があり、復興庁の事業縮小や福祉の課題があり、地域との関わり方などの問題も山積みされている中で、東日本大震災の風化防止に努めていかなければいけないと力説されました。

当事務所の林支援員からは、富岡町の現状や支援員の活動内容を説明し、今後、全国の各支援団体との連携強化を進めていきたいと話しました。

3.11を忘れない

埼玉集会2020



箏男kotomen 大川さん



ときわ会館1F富岡町展示のようす

令和2年1月30日、さいたま市文化センターにて、埼玉県労働者福祉協議会主催の「3.11を忘れない埼玉集会2020」が開催されました。埼玉県下から120名を超す支援団体、関係者が参加しました。このシンポジウムは、発生から9年となる東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故による避難者が抱える課題を共有し、支援のあり方を考えるものです。

避難先での生活の変化や支援団体の高齢化など、避難者を取り巻く問題が年々複雑化してきています。主催者は支援団体に、避難者の現状を知り、どんな支援ができるかを考えてほしいと訴えていました。

当事務所も発表の機会をいただき、この5年間の支援活動について報告しました。震災前、震災直後、長期避難中、現状の富岡町をそれぞれ紹介し、避難者の心情の移り変わりや現実的な問題点について報告し、今後は、避難先支援者による支援活動が重要であることを強調しました。

また、双葉町出身の箏男kotomen 大川義秋氏による箏や津軽三味線の演奏があり、会場には優雅な雰囲気漂いました。

春なのに…

2月・3月は福島県外で暮らす町民の皆さまを訪問し、近況などを伺う予定でしたが、突然の新型コロナウイルスの影響により、戸別訪問を取りやめざるを得なくなってしまいました。そこで、ご年配の方、お一人暮らしの方にお電話で近況を伺うこととしました。外出もままならず、家に閉じこもりがちだという方は「新型コロナウイルスの影響でサービスが閉鎖することもあれば、開いていてもウイルス感染が心配で家で休んでおります」と、切々と近況をお話くださいました。また、「富岡町はよかったあ、懐かしいなあ、魚はうまがったし、人も良かったもの。でも、土地・お墓等の問題がたくさんある。それを解決するまで、まだまだがんばるつもりです」と力強くお話しくださる方もおられました。

最後には「連絡ありがとう」などの言葉をいただき、皆さんから力をいただきました。お話しありがとうございました。

お話を
ありがとうだっぴ



編集後記

「支援員だより13号」をお読みいただきありがとうございました。本年度最初の号は、1月・2月に開催されたサロンなどの紹介です。新型コロナウイルスの感染が全国に及び、震災から10年目を迎えた「3.11を忘れない」とみおか桜まつりなどの追悼式典や春のイベントが相次いで中止または縮小となりました。新年度は、福島県外に暮らす町民の皆様とのふれあいを重点にイベント等を計画していましたが、コロナウイルスの感染拡大防止のため見直しせざるを得なくなっています。戸別訪問も当面は取りやめることになったため、電話にて皆さまの近況などをお伺いしておりますので、ご協力をお願いします。